



「…この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人となりびとになったと思いますか。」彼は言った。「その人にあわれみ深い行いをした人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」

ルカの福音書10章36～37節（新改訳2017）

コロナ禍の中、8月29日（土）「岡山キリスト災害支援室」（通称「岡キ災」）発足2周年セミナーと「まびくら」フェスタ（音楽ゲスト:檜山学氏）を、25席限定の招待制とともにZOOM（オンライン）での参加によって開催しました。「岡キ災」立ち上げ当時から支援をいただいた方々を来賓に迎え、感謝の時が持てました。また公的施設の支援をさせていただいた真備児童館の館長にお出でいただけたことは幸いでした。被災した同会場にて児童館が再開したとの報告と共に当時の働きに対する感謝のことばを賜りました。

個人的には立ち上げ当時、2年以上も災害支援に携わるとは思いもしませんでした。しかし、歩を振り返るとそこには多くの協力団体や支援者に支えられた神様のご計画があったと思われています。当時の私は、ただ目の前にある必要に対して、同労者とともにがむしゃらに走り続けてきたただけでした。

冒頭に記したみことばは「良きサマリヤ人のたとえ話」と呼ばれて親しまれている聖書の教えです。強盗に襲われた人物（ユダヤ人）に通りがかった3人（祭司、レビ人、サマリヤ人）が出会います。最初の2人（祭司、レビ人）は気づきながらも道の反対側を通り過ぎました。しかし最後の1人（ユダヤ人が敵対するサマリヤ人）は可哀想に思って駆けつけ、宿屋まで送り届けて手当てをしました。そして「誰が隣人になったか」という質問の答えに対して『あなたも行って、同じようにしなさい。』とイエス様は仰いました。

これ迄数々のみことばに励ましを受けて支えられてきましたが、この『あなたも行って、同じようにしなさい。』と仰ったイエス様の言葉はシンプルに響きました。「良きサマリヤ人」と言えば、東北支援で出会い、真備支援にも駆けつけてくれた「サマリタンズ・パース」（アメリカのキリスト教緊急援助支援団体）を思い浮かべます。この団体名は聖書の「良きサマリヤ人」から名づけられ「世界中の助けを必要とする人々の隣人」となっています。新型コロナ感染拡大全盛期のニューヨーク・セントラルパークに野戦病院が設置されたニュースを見ました。するとその野戦病院のテントに「サマリタンズ・パース」のロゴマークが記されていました。

「まびくら」での支援は、2021年3月末までと定めてスタートしました。その後どうするのかと問われますが、「まびくら」での支援は終わったとしても「岡キ災」としての組織は残します。そして必要に応じて活動は行う予定です。これ迄も「佐賀」「新見」「郡山」「長野」「熊本」にスタッフ及びボランティアを派遣しています。まさに「あなたも行って、同じようにしなさい」でした。

私たちは寄り添う支援から放たれるキリストの香によって聖書に関心を持ち、イエス・キリストと出会う方が起こされることを願うばかりです。それは私たちと同じ喜びを知っていただきたいからでした。コロナ禍に伴いまだ先が見えない状況ですが、イエス様が私たちに寄り添ってくださったように、私たちもイエス様に倣って「同じように」させていただきたいと願っています。引き続きのご支援ご協力をお願いします。

岡キ災室長・草井琢弘（岡山めぐみキリスト教会牧師）

新型コロナウイルス（COVID-19）そして九州豪雨による様々な苦しみの中にある人たちに、心からお見舞いを申し上げます。必要な助けと神様の守りが与えられますように。

前号において岡キ災のコロナ対策について記させていただき、まびくらの休館と様々な制限を設けた物資配布（4月4日以降）についてご報告させていただきました。そのような中、様々な感染予防対策を行いながら6月22日にまびくらの活動を再開し、10月1日より開館時間を通常枠（10～17時）に戻して開館しています。再開後に新しくまびくらを訪ねてくださる人たちもあり、制限がありながらも居場所としての支援が再開されています。

また、仮設支援については6月30日に早川知彦医師（福島県相馬市）の申し出を津久井進弁護士（兵庫県西宮市）が繋いでくださり、きちみ製麺（宮城県白石市）より届いた温麺（うーめん）を配布しました。また、9月4日には味の素株式会社より届いたアミノバイタルを配布しました。

子ども支援についてもインターネットを利用したコンテンツの他、夏季にはデイキャンプ等をYMCAせとうちが実施。好評を博しました。また、9月22日には「外遊びを楽しもう」（砂川公園：総社市）というイベントを行い、楽しく野外で過ごしました。

7月に発生した九州豪雨を受けて、7月5日にスタッフ1名を派遣。九州キリスト災害支援センター（九キ災）と協働し、熊本県人吉市での緊急支援活動を約3か月間（10月4日終了）行いました。この間、多くの祈りとご支援をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。紙面の都合上、この期間における支援活動の詳細におきましては、岡キ災のFacebookをご覧ください。

その他、キリスト全国災害ネット（全キ災）のネット会議（6月と10月）。7月6日、西日本豪雨2周年祈り会。同11日、YMCA九キ災報告（市來雅伸本部長）。同27日、YMCAチャリティトークライブに草井室長出演。8月1～31日、インターネットによるタリタ・クムセミナーの受講。同6日、土居弘幸教授による新型コロナに関する学び（日本基督教団東中国教区と共催）。同29日、岡キ災2周年まびくらフェスタ（ゲスト：アコーディオン奏者・檜山学氏）。9月1日、古村彰彦スタッフが働きに加入。同11日、エアコン増設と換気扇新設工事（日本基督教団の支援）。10月13日、岡山県宣教の集い総会（日本イエス・キリスト教団岡南教会とZOOM併用）が行われました。以上、感謝とともにご報告させていただきます。



あかし

岡キ災スタッフ・古村彰彦（広江聖約キリスト教会信徒）

私は長野県で生まれて神奈川県で育ちました。父が日本国有鉄道（現JR）に勤めており、その関係で神奈川県と長野県を行き来する時期もありました。大学で機械工学を学んだ私は、独自の理屈を掲げ、神様を信じる事無く、ニュートン力学で証明できないことはこの世に存在しない、キリスト教という宗教は認めるが神など存在しない等、唯物的で物質欲に支配された考えを持っていました。26才より長野県に居住し、元々興味のあった建築設計や大工に惹かれ、10数年の修行の末に工務店を営むようになり、教会の設計や聖書の勉強を始めたのもこの時期でした。そして地球物理学には限界があり、ニュートン力学では証明できないことが数多く存在していることを知り、神の存在を感じ始めたのもこの頃でした。

2001年に息子の築（きずく）が誕生し、彼が自閉症であったことをきっかけに自営の工務店を会社化、規模の拡大を図りましたが、息子の療育の意見の違いから離婚を経験いたしました。その頃のお客さんに聖書に詳しい人がおられ、1年半にわた

って聖書を教えていただきましたが、違和感を感じ、聖書と距離を保つようになりました。また、建築の仕事が障がいを持つ人にとって継続勤務が難しいことを実感し、建築業から農業への転向を試み、倉敷市真備への移住を考え始めました。そして、ぶどう農家を目指して研修をする中で現在のパートナーとなる慶子に知り合いました。彼女は当時、大阪で介護福祉の仕事をしており、息子の障がいにも理解があったので意気投合し、将来を約束するまで時間は必要ありませんでした。

研修を終え、真備への移住を決めた翌月（2018年7月）に「西日本豪雨」に遭って被災し、ぶどう農家を断念しました。泥水に浸かった家を前に途方に暮れていたその時、岡山キリスト災害支援室（岡キ災）のオレンジ色のビブスを着た西口カスタッフ（当時）が現れたのでした。そして大勢のクリスチャンたちがやって来て、神様に祈りながら、当たり前のように泥を出し、壁をはがし、山のように出てくる残材処分を無償で手伝ってくれたのでした。「クリスチャンたちって凄いなあ。その原動力は何なのだろう」と思いながらも、その時の私たちはまだ「神様に救われたこと」に気がつくことができませんでした。

多くのボランティアへの感謝を抱き、2019年11月に「まびくら」を訪問しました。残念ながら当時お世話になったスタッフは福島県郡山市に災害支援のために派遣されており、対応してくださった西村スタッフと美野スタッフに神様についての一方的な思いを話したことを覚えています。当時はまだイエス様を誤って理解しており、私の中に神理解に対するおごりがありました。その後、活動を終えて帰岡したスタッフとの会話から学びに導かれ、夫婦で3か月間ともに聖書を学びました。また、現在の所属教会牧師である吉岡創師との出会いもその頃でした。学びを通してイエス様に対する誤解が解け、聖書を通して語られる家族への優しいメッセージによって大切なもの（福音）を知ることができ、家族で洗礼へと導かれました。これは神様を確信する「人生最大の愛ある贈り物」でした。

現在は、築の将来を考えながら介護福祉の資格を持つ慶子とともに会社を設立し、障がい者グループホームを立ち上げようとしています。そして障がい者福祉の場において私たち家族にできることを惜しむことなく実践したいと祈り願っております。

（2020年8月30日、洗礼時に提出された証より）

九州豪雨支援報告

岡キ災書記・吉岡 創（南輝・広江聖約キリスト教会牧師）

7月5日～10月4日、約3か月における九州豪雨における岡キ災の支援活動についてご報告させていただきます。そして、今なお復旧と復興のために労しておられる被災された人たち、そして教会の愛兄弟、諸団体に心から主の慰めと励まし、そして必要な支援が与えられますよう、続けてお祈りさせていただきます。

7月3日の夜から降り続いた豪雨により球磨川等の河川が氾濫。今夏の「九州豪雨」は九州各地をはじめ、全国に甚大な被害を与えました。岡キ災は7月4日、これまで佐賀豪雨（2019年8月）そして東日本豪雨（2019年10月）にて支援活動を協働した「NPO法人 九州キリスト災害支援センター」（九キ災、横田法路理事長）に草井室長が連絡・連携を確認。翌5日にスタッフ1名を現地に派遣。同日より現地にて緊急支援の立ち上げを調査・立案している九キ災の市来雅伸本部長ならびに諸藤栄一熊本ベースディレクターとともに初動より働きに関わらせていただきました。

今回このように迅速に対応できた背景には、先の支援活動による協働とともに、コロナ禍にありながら「まびくら」（倉敷市真備町）の活動を継続している中でスタッフの健康管理（毎日の検温等）が実施されており2週間遡っての健康状態の把握等ができ、また必要と思われる機材を即日に準備し、翌日の礼拝において祈りとともに派遣することができた等、幾つもの見えざる「神様の御手の備え」がありました。背後にあった多くの祈りに心から感謝いたします。

また岡山県内の諸教会をはじめ、多くの人たちが岡キ災の緊急支援を理解をもって受け止め、献金や献品等のご協力とご支援をくださったことも活動が滞ることなく実施できた大きな要因でした。あらためて感謝を申しあげます。

現地での支援活動は5日の九キ災による調査によって関わりが築かれた人吉バイブル・プロテスタント基督教会（森下薫牧師）を軸とし、同時に熊本県にあるキリスト教会の超教派ネットワークである「熊本チャーチネットワーク」との協力の中で支援活動の調整が進められました。当初は熊本ベース（九キ災、熊本県益城町）から通う形での緊急支援を行い、14日からは九キ災が準備くださった八代市の宿舎を拠点にスタッフとボランティアによる支援活動が展開されました。

特に、緊急支援における初期対応の中で派遣スタッフの技能が生かされ、「丸ノコ伝道師」（被災家屋の床剥がし・壁剥が

し等の技能伝達)と呼ばれ、技能面での指導ができたことは嬉しい出来事でした。この体得された技能の背後には、彼の持っていた建築技術に加え、西日本豪雨による倉敷市真備での同様の作業経験によって先輩スタッフから学び蓄えた経験値により、丁寧に作業を進める技術とともに信仰に基づく被災された人々への配慮等もお伝えできたことは幸いなことでした。

また、支援活動を通して森下牧師ご夫妻や熊本の諸先生方と交わり、熊本県内から集まった多くのボランティアと交流し、さらには全国の支援団体から派遣されたスタッフたちと協働することによって「多くの恵みを受けた」と派遣スタッフが述懐しています。支援期間中、泥出し、床や壁剥がし、洗浄、運搬、解体、掃除、物資配布、傾聴、案内など多くの活動が行われました。最終的には30軒の被災家屋にて作業が行われ、のべ300名のボランティアが与えられました。あらためて心から感謝いたします。

その他にも、派遣スタッフが礼拝や祈祷会等に参加させていただいた諸教会。九キ災スタッフの方々との交わり(ネットを通じての報告等)、こころ温まる差し入れ、そして地域の人たち等。3か月を人吉にて過ごし、「多くの出会いと思い出をいただいた」とのことです。岡キ災に連なる私たちはこの絆を大切にしつつ、すべてを働かせて益としてくださる神様に祈り続けたいと思っています。すべてに感謝いたします。そして、主にあつてこれからの復興と新しく開かれる未来に期待しています。以上、簡単ですが九州豪雨における支援報告とさせていただきます。



会計報告 2020年5月25日～10月26日

岡キ災会計・中島啓一(岡南教会牧師)

【収入の部】 1,928,337円 (支援金72口 1,828,329円、雑収入 100,008円)

【支出の部】 3,547,549円

【差引残高】 7,996,205円 (※2020年5月24日までの残高 9,615,417円)

支出内訳 人件費 1,942,625円/備品費 143,164円/施設使用費 175,000円/行事費・活動費 329,340円
 車両費 414,287円/交通費 121,874円/交際費 18,729円/事務通信費 84,389円
 光熱水費 213,099円/会議費 25,412円/広報費 66,910円/研修費 8,100円/雑費 4,620円

支援者名(個人、教会、団体…敬称略)(日付順、括弧内の数字は期間内の回数、※印は九州災害支援指定)

南輝聖約キリスト教会(2)、同※(2)/岡山聖約キリスト教会(6)、同※(2)/山田香奈(5)/神保幸(5)/守部栄子/岡南教会(3)/豊田圭輔(5)
 アオヤギヨシアキ/シオン・キリスト教団蒲田教会(5)/淡輪聖書教会(3)/桑原義道・明子/匿名/Pray for All Japan/大熊恵利香
 罪人の友主イエス・キリスト教会/日本メソヂスト宣教会/山陽聖約キリスト教会(2)/岡山中央キリスト教会・婦人会※/アキヤママサシ
 日本同盟キリスト教団岡山グレイス・チャーチ/匿名/広江聖約キリスト教会※(3)/備北聖約キリスト教会/一宮教会/水島聖約教会
 玉野聖約キリスト教会※/福山聖約キリスト教会/渡辺美恵子※/真砂永一/古谷真紀子/今村俊介・由美子/笹沖聖約キリスト教会※
 津山聖約キリスト教会/石井美佳/メサイアオート・虫明真/東京基督教大学2019年度夏期伝道広江聖約キリスト教会派遣チーム
 オペレーション・ブレッシング・ジャパン/沢知恵チャリティー・ライブ～震災から2年、北海道から今みんなへ～/都筑コミュニティ教会

※引き続き、まびくらの維持費、専任スタッフの人件費、その他様々な活動の経費などが必要です。真備の地に根ざし、真備の人々にキリストの愛を届けていくため、お祈りとご協力をよろしく願いいたします。

※領収証は原則として送金の際の払込受領書をもって代えさせていただきます。領収証が必要な方は、備考欄にご記入いただくか、メール等でご連絡ください。

【訂正】ニュースレター2号 会計報告(2018年11月21日～2019年1月31日)

【支出の部】(誤) 2,775,107円→(正) 2,475,107円 [支出内訳・人件費](誤) 960,000円→(正) 660,000円 [繰越残高](誤) 21,319,147円→(正) 21,619,147円
 ※2019年2月分の人件費(300,000円)がニュースレター2号と同3号の両方の会計報告に重複して計上されていました。お詫びして訂正いたします。